

安全だより

第 48 号

◆発行
令和 2 年 1 月 17 日



公益社団法人
下松市シルバー人材センター
安全委員会

全国統一安全スローガン

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

『一年の計は元旦にあり』

明けましておめでとうございます。本年も会員の皆様が安全に就業されることを安全委員一同、心より願っております。

2020年、今一度初心に戻り『安全の計』を立ててみましょう。



無事故が長く続くと、ともすれば現状肯定の空気が強くなり、安全意識が停滞しがちになります。

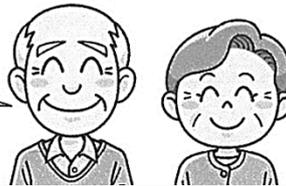
停滞した安全意識は、何時事故が発生しても不思議ではないとも言えます。「昨日も今日もこの方法で作業し、事故発生がないから今のやり方がいいのではないか」という自己流の考え方で安全評価をしていませんか？

この固定観念が怖いのです。安全意識を高めるためには、一層前進するための高揚策が不可欠の要素となってきます。

わたしたち会員に「一つの欠落」があってはならないのが事故防止の基本なんです。

もう一度「お互いの価値観」を見直しさらに「安全意識高揚」に努めていきたいものです。

まだまだ
がんばります



頼もしいわ。
でも無理しちゃ
ダメよ

シルバー世代の

健康管理について

最近のシルバー世代には、元気な人が増えていますが、けれども六十歳、六十五歳・・・と年齢を重ねるにしたがって体のさまざまな機能は低下していきます。

◎体の機能低下を自覚しよう◎

年を取ると筋肉や骨などの筋骨系の衰えや、目や耳の機能低下などをきちんと自覚し、対処していくことが重要になってきます。

「わたしは元気だから大丈夫」と過信せずに、加齢によって体の機能が低下していくことを、しっかりと受け止めておきましょう。

「シルバー世代の健康管理」から

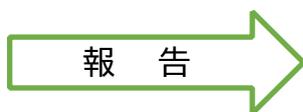
☆「生きがい」も健康、安全あってこそ

☆老いを知り己を知って事故防ぐ

全国シルバー人材センター事業協会の安全就業標語から

ホウ・レン・ソウ(報告・連絡・相談)

ほうれん草をを食べると力が出るポパイではありませんが、この3つを身に着けると安全で明るい職場が作れます。



結論から先にメモをしてから手短かに悪いことはいち早くヒヤリハットも忘れずに



電話で連絡、文書で連絡
合図は声だけでなく身ぶり手ぶりで



状況を整理し問題点をしぼり込み
自分の意見を持ったうえで
人の話は最後まで聞く、聞き直して確かめる



会員体験談

～明日は我が身とならぬように気を付けよう～

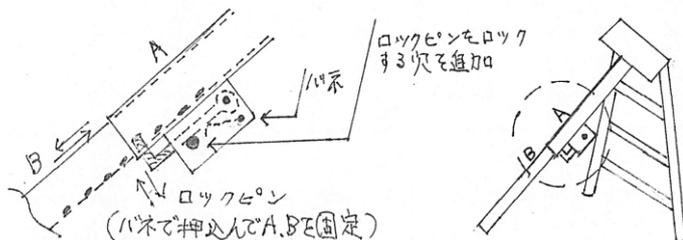
“念には念を”

「脚立から落ちた」といった事象は何度か耳にしたことがある。私自身、どんな時にそのような事故が起こるのだろうか？と不審に思うくらいであった。

しかしながら落ちました。

見事に落ちました。

一瞬何がおきたのか理解できなかった。あおむけに倒れ背中を強打し、しばらく動くことが出来なかった。今思えば実に怖い事故であった。



上図は伸縮自在な脚立での固定方法を図示したものです。このロックピン、移動設置中に何らかの外的な力が加わり、外れ加減になっていたものと思われる

2～3段は何ともなかった。4段上がったところでいきなり“ズシーン！”全治一週間。

今ではロックピンをロックする2重ロック構造に改造して使用している。もちろん設置後の確認も怠らないようになった。

この程度の追加処置ならトレードオフとまではならないだろう。

「わたしのヒヤリ・ハット」

横着者の私は車の運転でヒヤリ・ハットが結構ある。

ある日の小雨混じりの交差点。信号が青になったので右折しようとした。向かい側の歩行者信号機で、横断する歩行者や自転車がいないことは見ていたが、よく見ていなかった右後ろの歩行者用信号の電柱のところから、女学生が乗った自転車が突然走ってきたので、急ブレーキを踏んだところ、幸いにも横断歩道の直前で車が停止し事なきを得た。

やはり、小雨混じりの交差点。知人の葬儀の帰り道。信号が青になったら右折しよう、と自分のことばかりを考えていたので対面に直進者がいたことにまったく気付かず、危うく直進者と衝突するところだった。

2件とも、せっかちな私のちょっとした不注意のせいで、他人に大きな危害を加えたかもしれない出来事で、それ以来、右折には特に気を付けるようにしている。

これからは、自分の安全運転が周りの人にとっても安全と思っていただけるように心掛けること(ついスピードを出し過ぎたこともあるけれど)と、健康で明るい毎日を送るために、出来るだけ人に迷惑をかけないような運転を心掛けたい。

『安全はすべてに優先する』